



野口恭平先生は、京都大学で博士後期課程を修了され、2017年度より社会基盤工学専攻構造工学講座で助教をされています。橋梁の劣化の一因である飛来塩分の橋梁表面への付着量を、風工学的な視点で評価する研究に取り組んでおられます。また、橋梁の空力振

動現象解明のための風洞実験や数値流体解析も行っておられます。

自身の研究活動に熱心に取り組んでおられる一方で、学生に対しての研究指導も一人ひとりに対し時

間をかけて下さいます。実験や論文執筆中に学生がフリーズした際でも、共に悩み、学生では思いつかない多くのアイデアや鋭いご指摘で、解決や更なる悩みへ導いて下さります。また、年齢が我々学生と比較的近く、一緒に行きつけの食堂で食事をしたり、野球やテニスで汗を流したりと、親しみやすい存在でもあります。常に学生の研究環境に気をつけていただき、特に今の研究室でよい住環境を享受できるのは先生のおかげであると学生一同強く感じています。

研究に対する熱意、学生指導に対する熱意、娯楽に対する熱意、これら全てを兼ね備えた野口先生の下で研究生生活を送ることができ幸せです。今後とも変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。

(修士課程1年 福島 温樹)

[略 歴]

2012年3月 京都大学工学部地球工学科 卒業

2014年3月 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻修士課程 修了

2016年4月 日本学術振興会特別研究員 DC (2017年3月まで)

2017年3月 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻博士後期課程 修了

2017年4月 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 助教